２０１７　年度（平成２８年度）学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番　３０	福山市立東村小学校
最終更新日	2017 年（平成 29 年）10 月 30 日	

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビ ジ ョ ン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- 小中一貫教育によるあいさつ，歌声等，中学生を手本に充実を望む。
- 授業力向上等，教職員のより一層の力量アップに努めてほしい。
- ふるさと学習，子どもの地域行事への参加等，更なる地域連携を望む。

児童生徒の現状

- 基礎学力の定着「表現力」「書く力」に課題がある。
- あいさつや無言掃除は，小中一貫した取組の成果が見られる。
- 体力「持久力」が向上している。
- 地域との交流により，郷土への愛着心が高まっている。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	相手意識をもって，自分の言葉で表現する力 ～コミュニケーション能力と思いやり～
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	変化の激しい社会をたくましく生きる子ども (1) 基礎学力を身につけ，自ら学び続ける子 (2) 規範意識を身につけ，思いやりのある言動ができる子 (3) 運動・食習慣を身につけ，活力のある生活ができる子
中学校区として統一した取組等	(1) 学力向上…授業改善，家庭学習の定着，ふるさと学習の推進 (2) 規範意識向上…あいさつ，無言掃除，時間厳守，授業開始時の黙想 (3) 体力向上…持久力の向上，各校独自課題の克服，食育の推進 (4) 児童生徒交流…小中歌声交流会の実施，各種学校行事の交流

Ⅲ　自　校

ミッション

- 確かな学力を身につけ，心豊かな児童が育つ学校
- 地域に根ざし，児童・保護者・地域がともにつくる特色ある学校

学校教育目標

心豊かに自立・貢献・感謝する児童の育成
～主体的に学び，地域を愛する子どもの育成～

現　状

＜児童生徒＞
○子どもたちは地域に愛着と感謝の気持ちを持ち，地域に見守られて生活している。生活規律や学習規律は概ね整い，学習にも意欲的である。
●自分の考えを説明したり，相手の考えに対して自分の意見を述べたりすることに課題がある。

＜授業＞
○算数科での問題解決型学習の授業スタイルは整ってきた。
●子どもが課題を自らのものとし，主体的・協働的に課題解決に取り組むまでには至っていない。教科書に沿って，学習リーダーを中心に展開できつつあるが，思考・表現の深まりや広がりは十分ではない。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）		思考力・判断力・表現力	主体性・積極性，共感力
めざす子ども像	低	《話す》 ・身の回りのものや出来事や体験を，順序を考えながら話すことができる。 ・自分の思いや考えを，理由とともにはっきり大きな声で話すことができる。	《話す》 ・考えを出し合い，お互いの考えを明らかにしようとしている。
	中	《話す・聞く》 ・自分のしたこと，見たこと，聞いたことの体験を詳しく話すことができる。 ・相手の考えを受け入れて，自分の思いや考えを話すことができる。	《話す・聞く》 ・意見交換をして，相手の考えと自分の考えを比較検討しようとしている。
	高	《話し合う》 ・問題を見出し，他者と協働しながら考えを伝え合い，解決することができる。 ・思いや考えを基に構想し，意味や価値を創造することができる。	《話し合う》 ・自分の伝えたいことを論理的に話したり，相手の考えを理解し受け入れたりして，共通理解を深めようとしている。

研究	教科等	算数科，体育科
	主題・内容等	自ら考え学ぶ児童の育成 ～子どもが進める授業づくりを通して～
めざす授業の姿		子ども同士が考えや意見をつなげ，主体的・協働的に問題解決に取り組む授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東村小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日) 口指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価(2月末) 口指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	「知識・技能」を習得させ，「思考力・判断力・表現力」を育成する。		見直し	①国語，算数において，基礎・基本の学力を定着させる。	▸問題解決に必要な話型に慣れさせるなど，学習リーダーとフォロワーを育成する。 ▸毎日 10 分間のドリルタイム。 ▸年間 16 回の東村検定（漢字，算数，理科等）。	▸国語と算数において，学期末テスト80点以上の児童が 75%以上。	学習リーダー育成は進んでいるが，フォロワー育成は継続課題。ドリルタイムの活用。東村検定は計画的に実施できている。 国語 75% 算数 79%	4	3	①フォロワーの育成のため，教師が発表などの手本を見せる。 ②つまずきの把握と個別指導。課題となっている問題を取り上げての補充指導。					
		★	新規	②発表力を育成する。	▸思考を深めたり，広げたりするための「言語わざ」を示す。 ▸様々な説明方法を体験させる。	▸「『言語わざ』を使って説明できる」児童が80%以上。（児童，教師） ▸「自分の考えを深めたり広げたりできている」児童が 85%以上。	習得すべき言語わざを各学年で設定。黒板，WB，モニターなどのツールを活用した発表。 言語わざ68% 深め広げ61%	4	3	①習得させたい言語わざを示し，教師が活用の手本を見せる。 ②タブレットやモニターを使った発表の機会を増やす。					
1	子どもが自ら考え学ぶ力を育成する。	★	見直し	③考えることが楽しい授業をつくる。	▸子どもに学習意欲を持たせるため，考えたくなる問題を提示する。（二者択一，生活場面，情報不足） ▸生徒指導の３機能を生かした授業を行う。	▸「楽しさ」「わかりやすさ」等に関する肯定的回答率が９０%以上。 *児童「考えることが楽しい」 *保護者「授業がわかりやすい」	研究授業で自作の問題を提示した。自己決定の場，自己存在感を与え，共感的人間関係を育んでいる。 児童 90% 保護者 92%	4	3	①考えたくなる問題の開発（アレンジ），蓄積，共有を行う。 ②映像等視覚に訴える教材により「わかりやすい」と感じられる授業づくり。					
			見直し	④読書習慣を定着させる。	▸毎週，月火木に朝読書を実施し，読書量を記録する。 ▸毎学期，読書週間を設定し，図書委員が本の紹介や読み聞かせを行う。目標達成者を表彰する。 ▸毎月１回以上家庭での読書を宿題にする。	▸目標読書量を上回る児童が 75%以上。 《目標》１か月に １年 20 冊 ２年 400 ページ ３年 500 ページ ４年 500 ページ ５年 600 ページ ６年 600 ページ	朝読は100%実施。学期に１回の読書週間で本の紹介と表彰を行った。家庭読書の宿題は不十分。２学期から実施中。 １学期達成率 48%（未記入者あり）	3	3	①おすすめの本の「紹介カード」を全児童がつくるなど，啓発活動に取り組む。 ②月２回（１日，19 日）のノーメディアデーに合わせて家庭での読書を宿題にする。					

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日) 口指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価(2月末) 口指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	社会性のある言動ができる児童を育成する。		継続	⑤規律ある学校生活ができるカを育成する。 「あいさつ」 「掃除」 「時間厳守」	▸学期１回，児童会と委員会が模範児童を表彰する。 *あいさつ(児童会) *掃除(美化委員会) ▸児童会や委員会が，ポスターや劇等で啓発する。 ▸チャイムで授業を始め，終わる。	▸規律３要素の肯定的回答率が90%以上。 *あいさつ「来校者や地域の人へ」「自分から」 *掃除「黙って」「時間いっぱい」 *時間「席チャイム」「黙想」	児童会の挨拶名人表彰等，委員会の掃除名人表彰が定着。児童会のあいさつ運動も継続中。全教職員で率先垂範している。 あいさつ96% 掃除88% 時間87%	3	3	①児童会による挨拶運動，挨拶表彰の継続。職員室への入退室時の作法指導。 ②掃除中の巡回指導。委員会の掃除名人表彰。 ③席チャイム，黙想の意義を指導の上，実行。					
		★	見直し	⑥困っている人を助けるなどの「思いやり」や温かみのある「言葉遣い」ができるカを育成する。	▸児童会の年間目標とする。 *学期１回，児童会が元気大賞として表彰する。 ▸毎週木曜日の一斉下校時に振り返りをする。 ▸授業や集会時の返事を徹底する。	▸「思いやりを持った行動ができる」児童90%以上。 *声掛け，人助け ▸「ＴＰＯに応じた適切な言葉遣いができる」児童90%以上。 *「君・さん」の呼称，敬語，返事	児童会の「東村元気大賞」表彰。下校時に毎日言葉遣い等月間目標の振り返り。全教職員による率先垂範。 行動91% 言葉遣い86%	4	4	①元気大賞表彰の継続。帰りの会にほめほめシャワーで自己肯定感を育む。 ③授業中を中心に丁寧語（君，さん，はい，です，ます等）の指導。率先垂範。					
1	体力を向上させる。	★	新規	⑦「上体起こし」を向上させる。	▸体育授業で毎時間サーキットトレーニングをする。 ▸全校遊びで走ることを取り入れる。 ▸伸び率の高い児童を表彰する。	▸「上体起こし」で，平成28年度県平均を上回る児童が65％以上。	サーキットトレーニングは定着。全校遊びも毎週２回実施。伸び率上位３名を表彰。 上体起こし全国越え…59%	3	3	①サーキットトレーニングに「上体起こし」を入れる。 ②全校遊びで「走る遊び」を取り入れる。					
1	地域から信頼される学校をつくる。		継続	⑧小中一貫教育カリキュラム及び地域連携事業計画に沿って取組を進め，地域に信頼される教職員となる。	▸若草会，福山大学等と協同した教育活動を行う。 ▸校長室の窓，学校だより，食育だよりを発行し，地域へ回覧する。 ▸保護者とのコミュニケーションを図る。	▸保護者の「十分」が70%以上。 *「教育内容や教育活動がわかる」 *「熱意と誠意をもって教育している」 *「本校教育に満足している」	米作りや収穫祭，大学生を講師とする安全マップ作りなど地域の教育力を活用して実施。各種たよりは地域へ回覧。 *十分わかる45% *十分熱意51% *十分満足46%	4	2	①感謝，貢献の視点を強化。 ②たよりは写真や資料を活用。読み易くする。 機会ある度に児童の頑張りや様子を保護者に伝える。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。